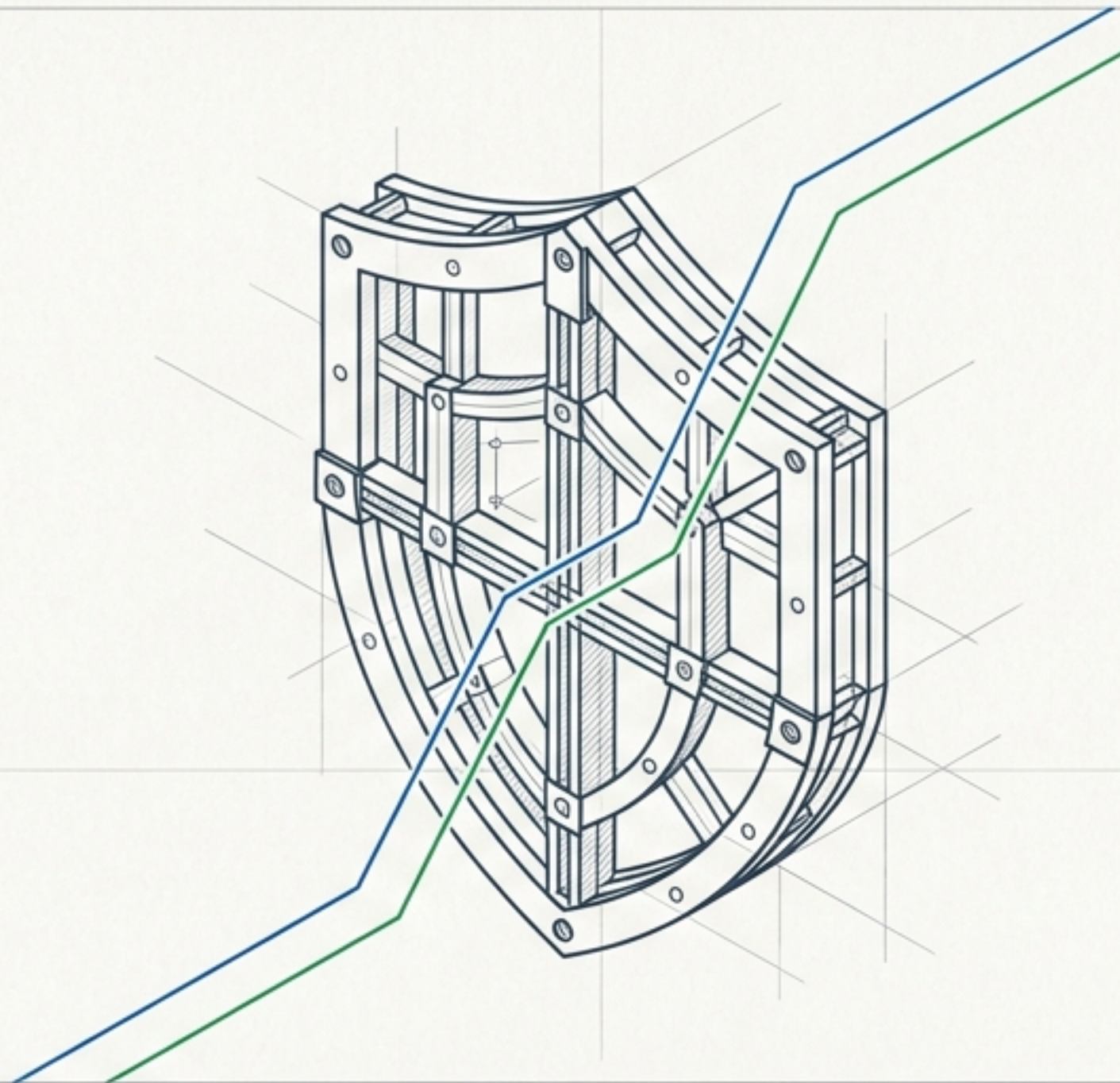




生成能力の極限と、特許・意匠・著作権法理が求める「完全性」の交差点。

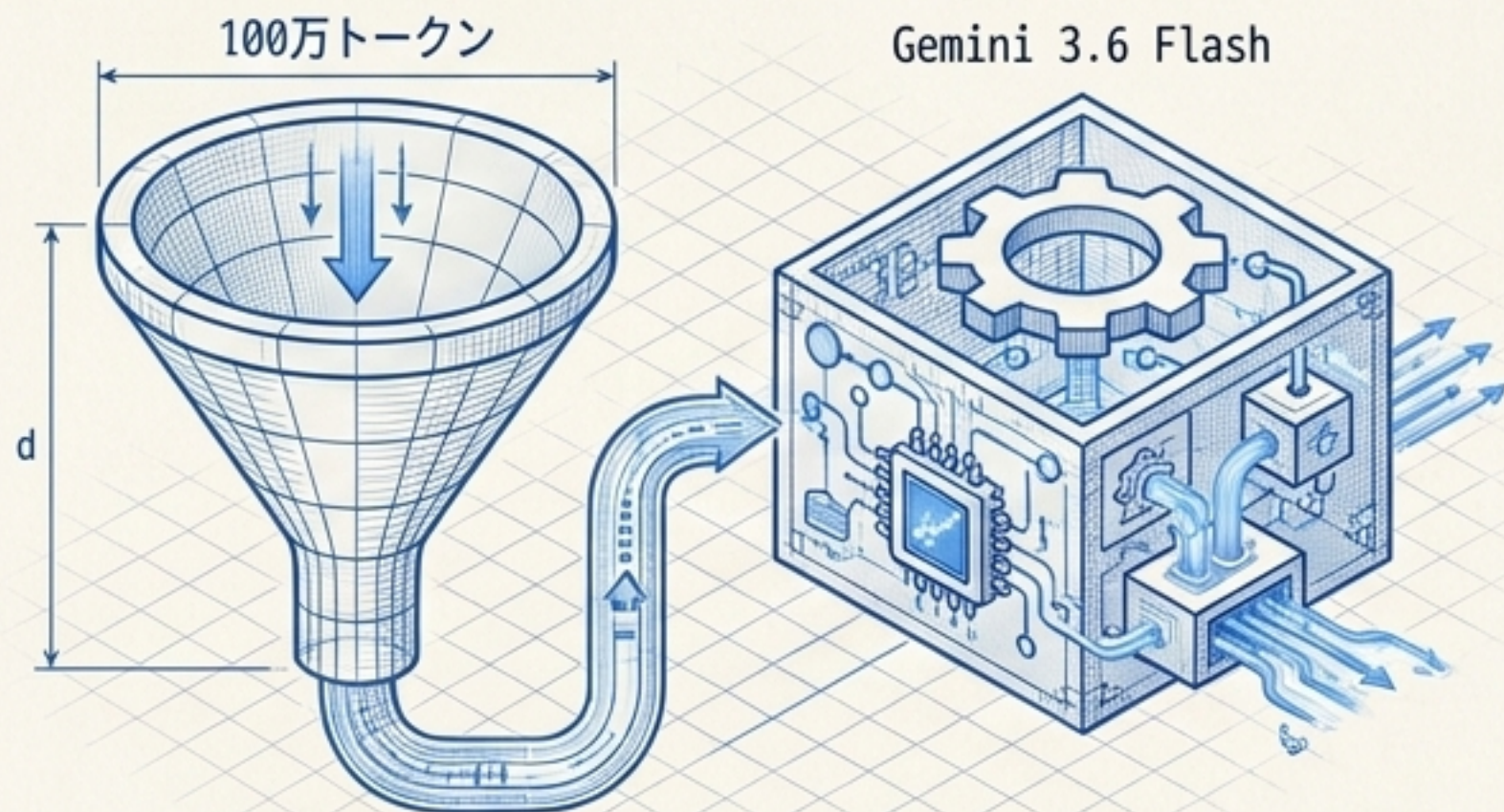
2026年秋期 画像生成AIの知財実務適合性

Nano Banana 2.1 vs GPT Image 2.5 — アーキテクチャの分岐とハイブリッド・ワークフローの確立

FOR IP STRATEGISTS, CORPORATE COUNSEL, AND R&D LEADERSHIP

基盤アーキテクチャと開発思想の決定的な差異

文脈と論理の構築 (Google DeepMind)



「Thinkingモード」による生成前の構図・論理検証。

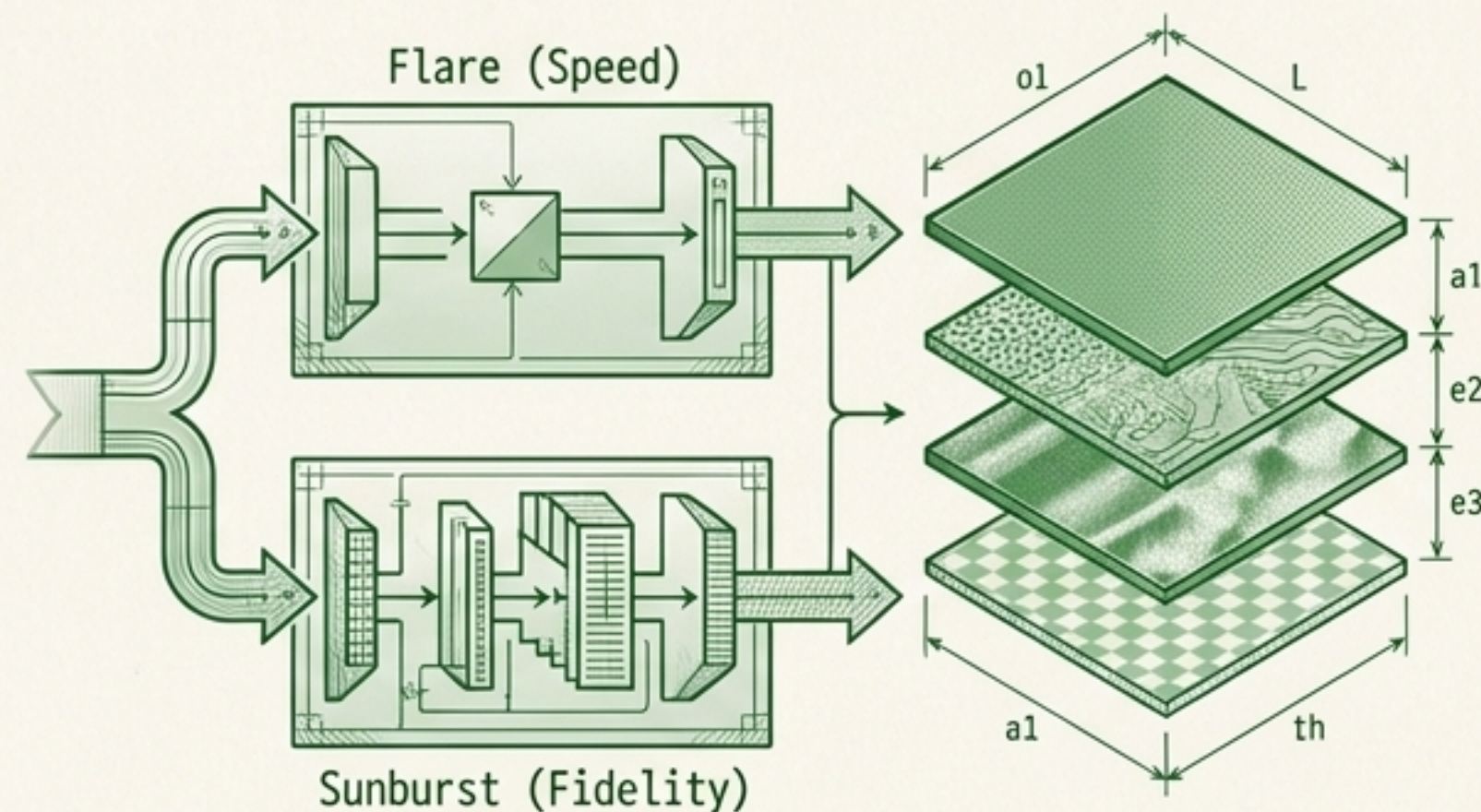


Google検索とのリアルタイム接地（グラウンディング）。



インフォグラフィックの正確性スコアが2.9倍
(0.179→0.521) に向上。

直感と局所精度の追求 (OpenAI)



「Sketch」入力による直感的な画像具体化。



APIからのネイティブ透過背景（Alpha）直接出力。



微細な工業テクスチャの高周波分離と、ドリフト現象を抑えた非破壊的な局所編集。

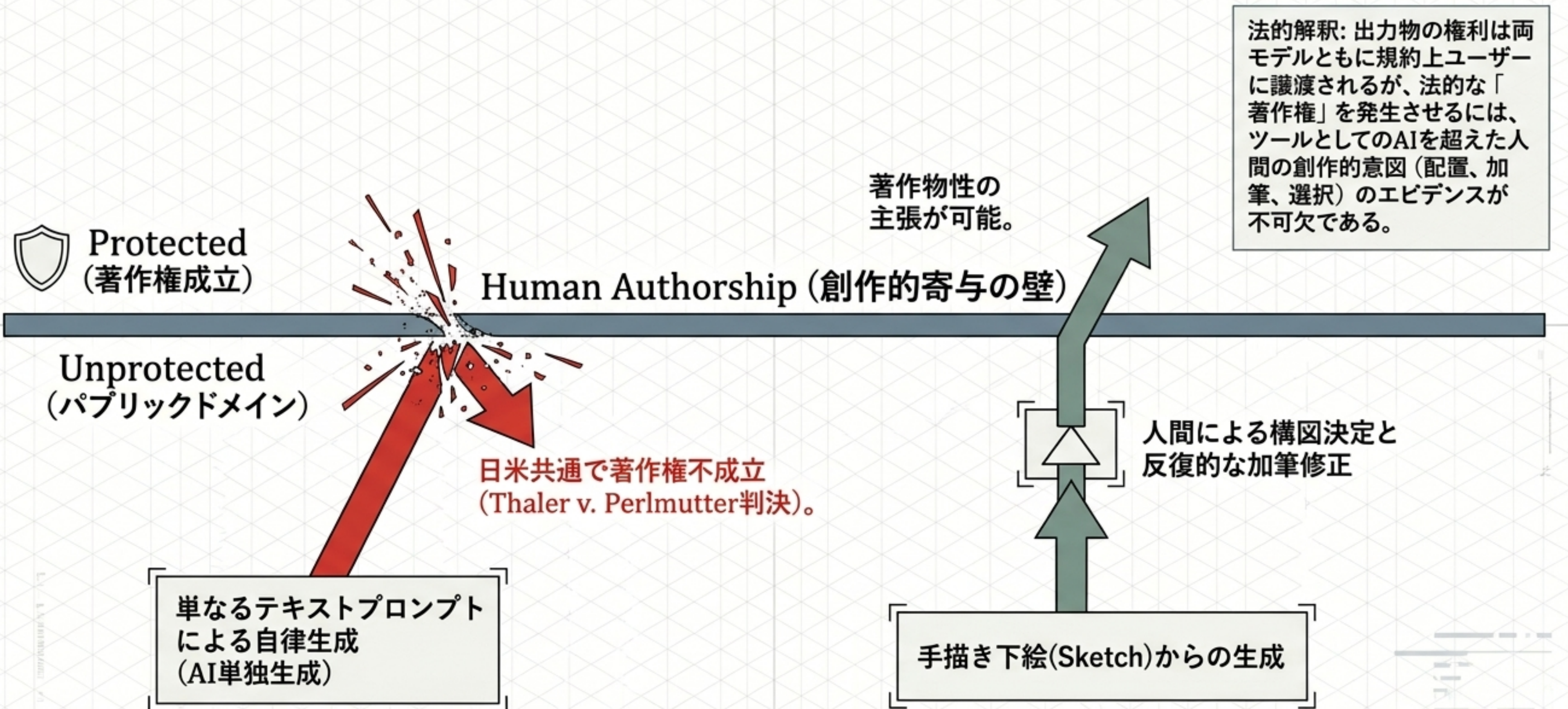
コア仕様および生成・編集性能の比較マトリクス

Criteria	Nano Banana 2.1	GPT Image 2.5
基盤推論	Gemini 3.6 Flash (マルチモーダル)	GPT-Image-2.5 (Flare/Sunburst)
解像度・アスペクト比	最大4K / 1:8等の極端な比率対応	最大4K / 任意のカスタム縦横比
アルファ透過 (背景)	外部依存 (●○○)	ネイティブ直接出力 (●●●)
参照画像・同一性維持	最大14枚 / 複数オブジェクトの複合組立 (●●●)	最大16枚 / 非破壊的な局所維持 (●●●)
外部知識接地	Google Web/画像検索連携 (●●●)	ChatGPT経由での連携 (●●○)
APIコスト (1K目安)	約\$0.0504	トークン課金 (\$0.04~\$0.053)



[Nano]は1K解像度での極小文字列の滲みや左右の空間推論誤認に課題あり。
[GPT]は意図が局所に留まる場合の安定性が高い。

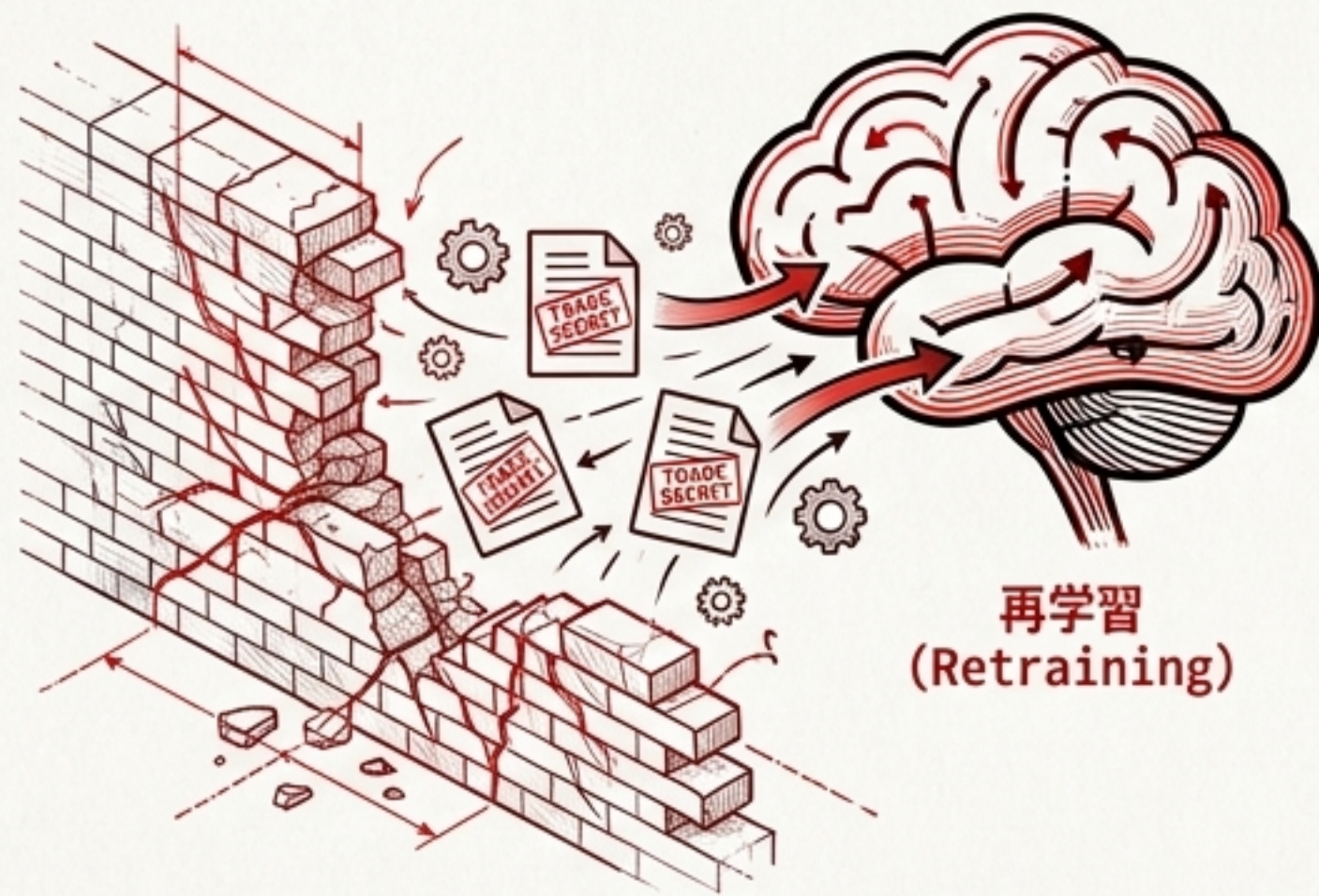
IP Gauntlet 1: 生成物の著作物性と「創作的寄与」の境界



IP Gauntlet 2: 機密保持と新規性喪失リスクの完全遮断

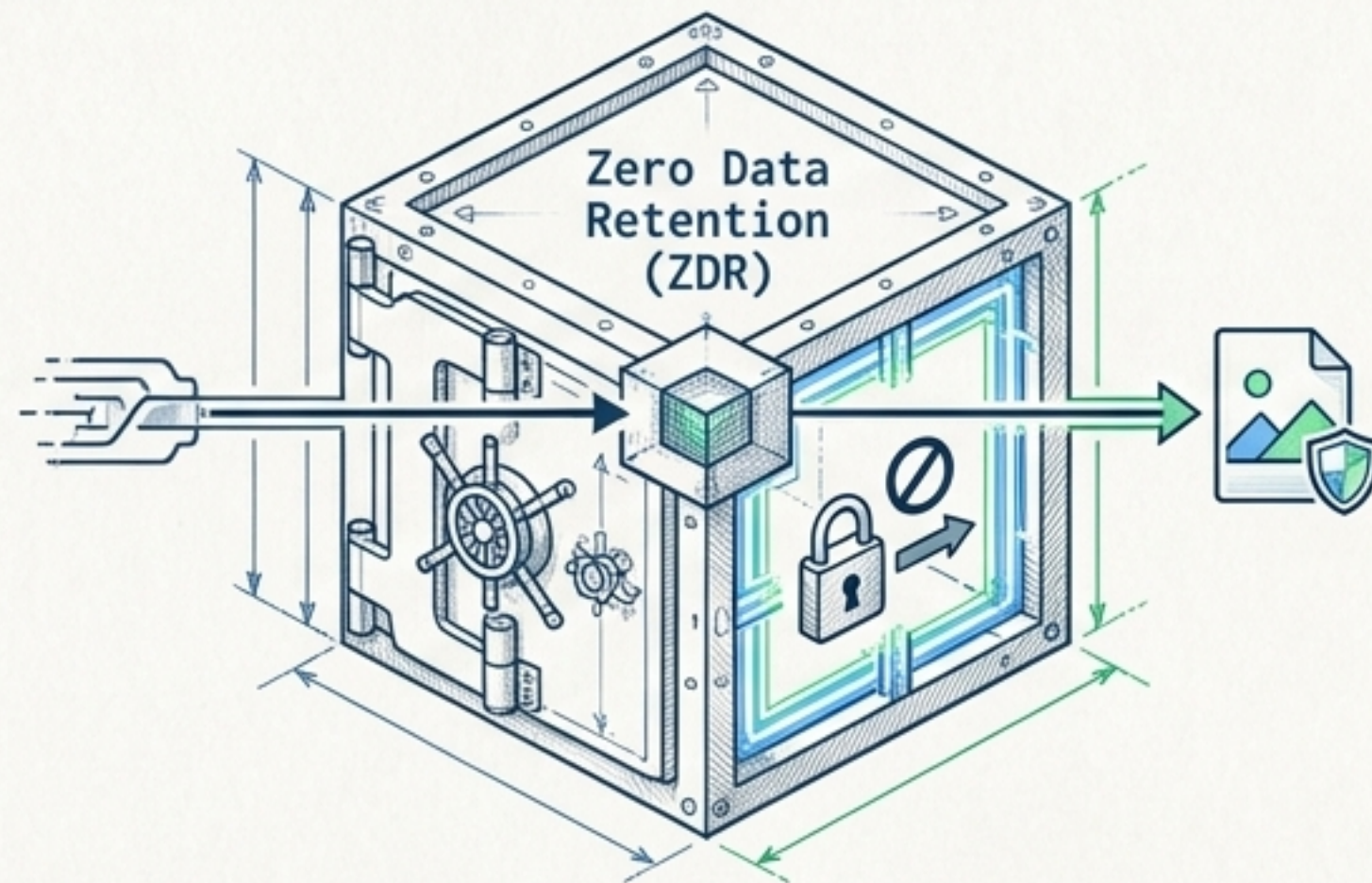
Walled Garden

コンシューマー向けUI (無償版ChatGPT / Gemini)



入力データが再学習に流用されるリスク。特許法上の新規性喪失（公然知得・公然実施）、営業秘密の保護要件喪失に直結。

法人向けAPI & エンタープライズ契約



適格エンタープライズ向けのZDRおよびPrivate Safety Processingの適用。Google Cloud / OpenAI API経由での論理的隔離。学習への非利用が契約上担保される。

戦略要件：出願前の未公開発明や意匠案を扱う知財実務において、コンシューマーUIの利用は厳格に禁止されなければならない。

IP Gauntlet 3: 知財侵害補償制度とその「免責の罠」



結論: 補償制度は万能ではない。生成プロセスの透明性と、入力データ（参照画像）の適法性管理（自分が権利を持たない画像の入力禁止）が必須。

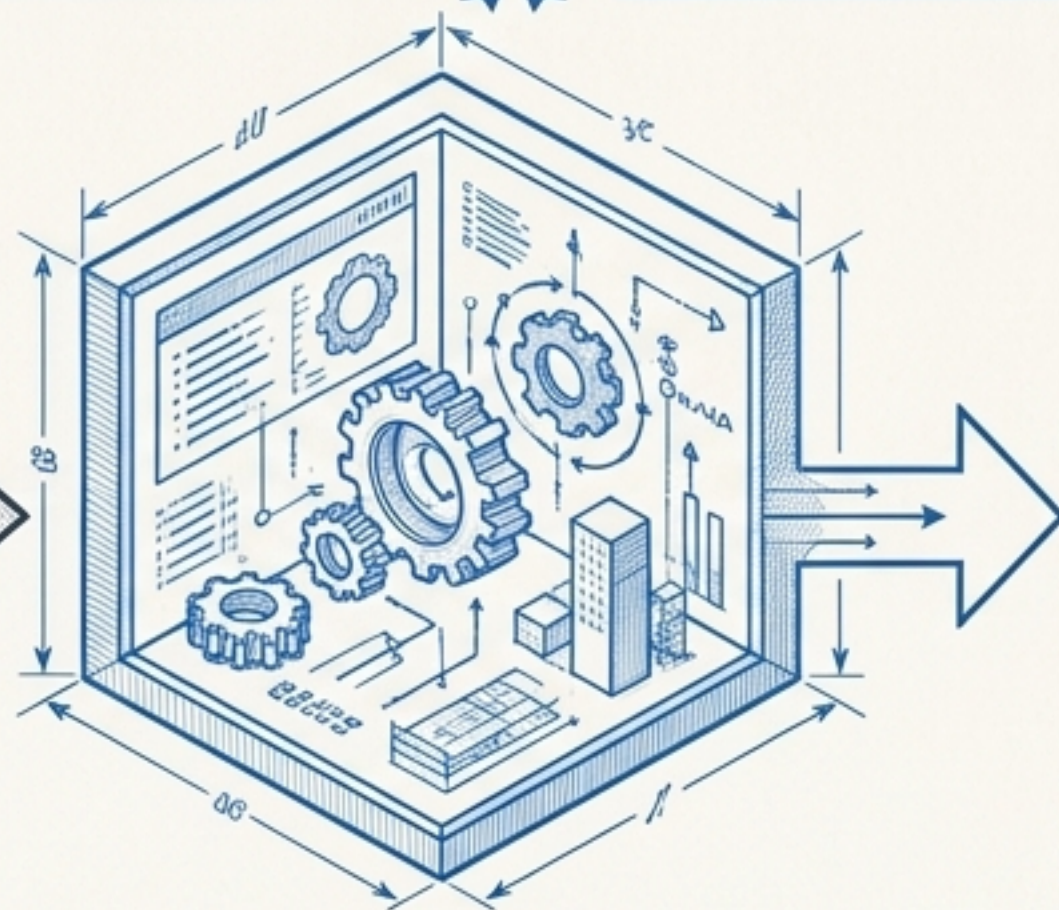
実務ユースケース 1: 先行技術文献の可視化と技術思想の理解

適用領域: 侵害訴訟・無効審判・社内鑑定

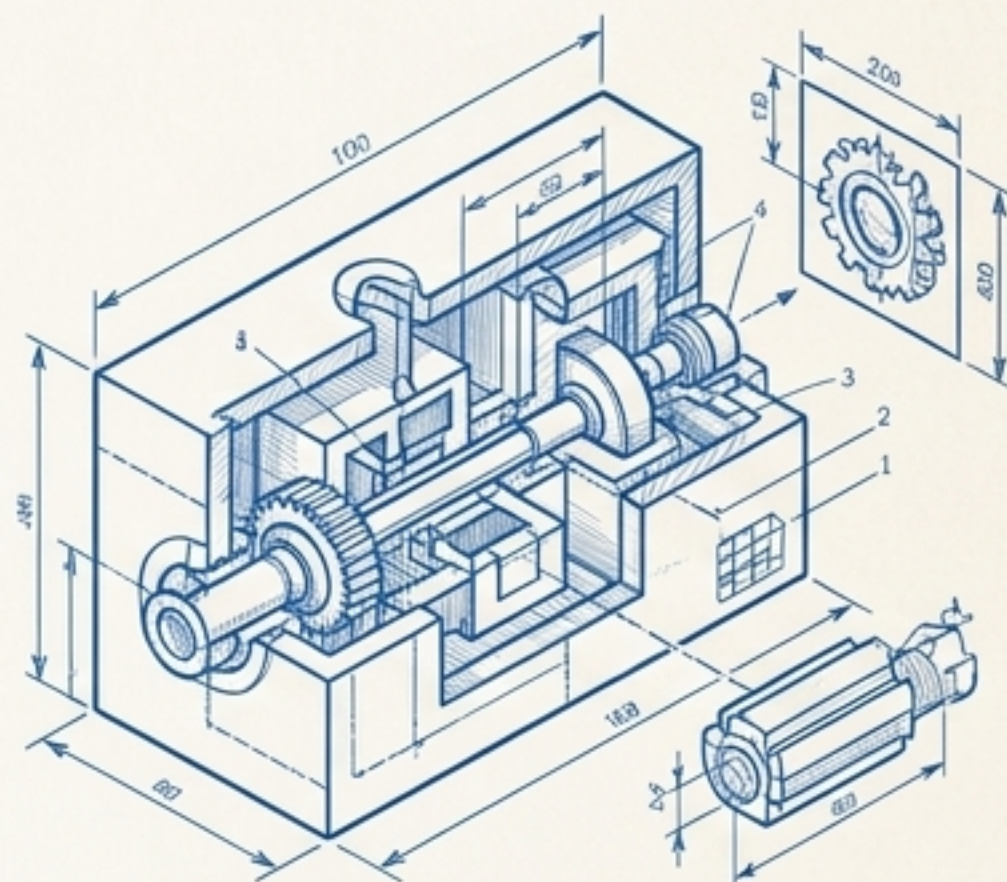
最適解: Nano Banana 2.1 (圧倒的優位)



複雑な先行技術文献
(Complex Prior Art)



100万トークンの文脈窓
(1M Token Window)
& Thinking Mode



可視化・構造化された技術思想
(Visualized Technical Concept)

- 長大な請求項や難解な実施例の記述をそのままプロンプトとして一括投入可能。
- 審査官や裁判官に対し、歴史的な先行技術の「技術思想 (Inventive Concept)」を直感的に伝達するためのプレゼン資料作成を強力に省力化。
- Thinkingモードによる物理的配置と機構動作の内部検証により、物理的矛盾の少ない構造説明図を生成。

実務ユースケース 2: 商標・パッケージの創出とクリアランス

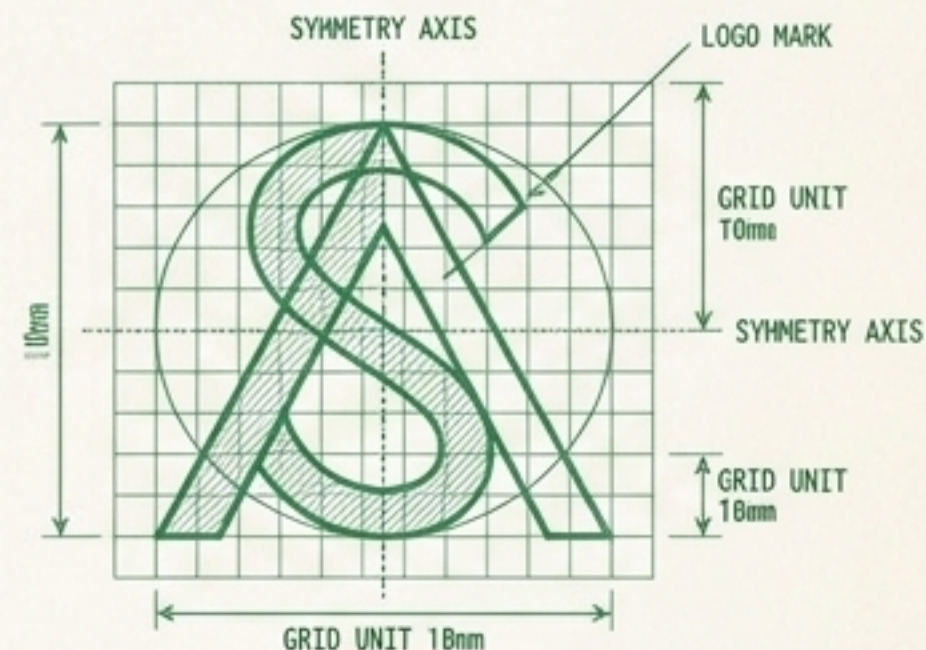
適用領域: ブランド保護・商標出願

The Market Researcher



Web/画像検索のリアルタイムグラウンディングを活用し、最新の市場トレンドや競合の意匠傾向を反映した多言語パッケージのモックアップ試作に優れる。

The Typographic Designer



フォントの破綻やノイズが極めて少なく、視認性の高いシンボルマークやロゴデザイン (Templates機能) の幾何学的な均一性に秀でる。

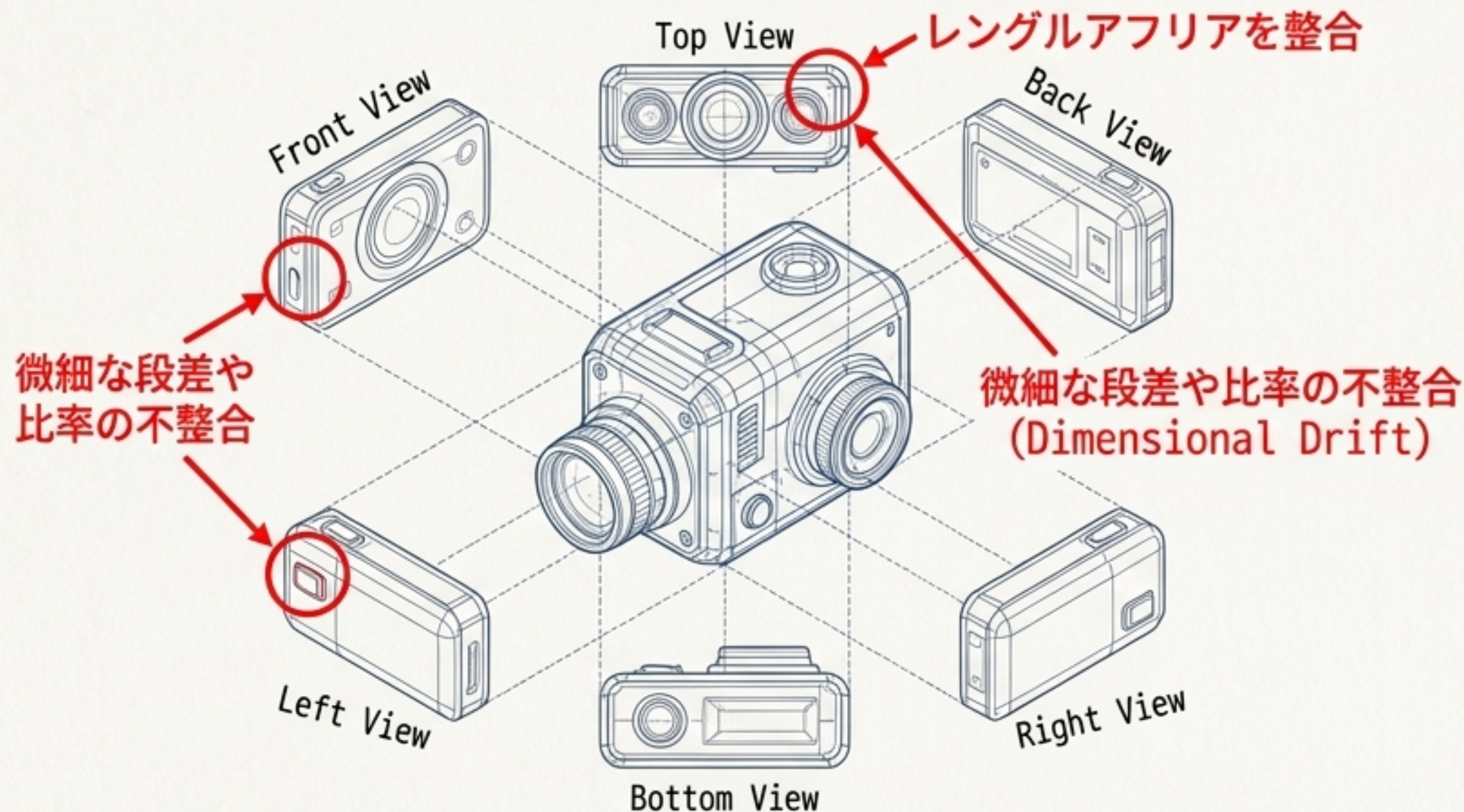


必須の運用要件 (Clearance)

- リスク: 学習データ内の既存商標との「偶発的類似リスク」はAIでは排除不可能。
- プロセス: 出願前に特許情報プラットフォーム (J-PlatPat) 等を用いた類似群コード検索および画像類似検索によるクリアランス調査が絶対条件。

実務ユースケース 3: 意匠登録（六面図）における幾何学的整合性の壁

適用領域: 意匠出願の実務要件（直交投影）



技術的境界:

- Nano Banana: 三次元推論および左右の幾何認識に既知の限界があり、アングル間で破綻が生じやすい。
- GPT Image: 参照画像の固定能力によりバリエーション生成は安定するが、登録査定に耐える「完全な寸法一致」は担保困難。

AI（コンセプト創出・バリエーション探索）

[Meshy AI等の2D-to-3D生成ツール]

[3D CADソフトウェア]

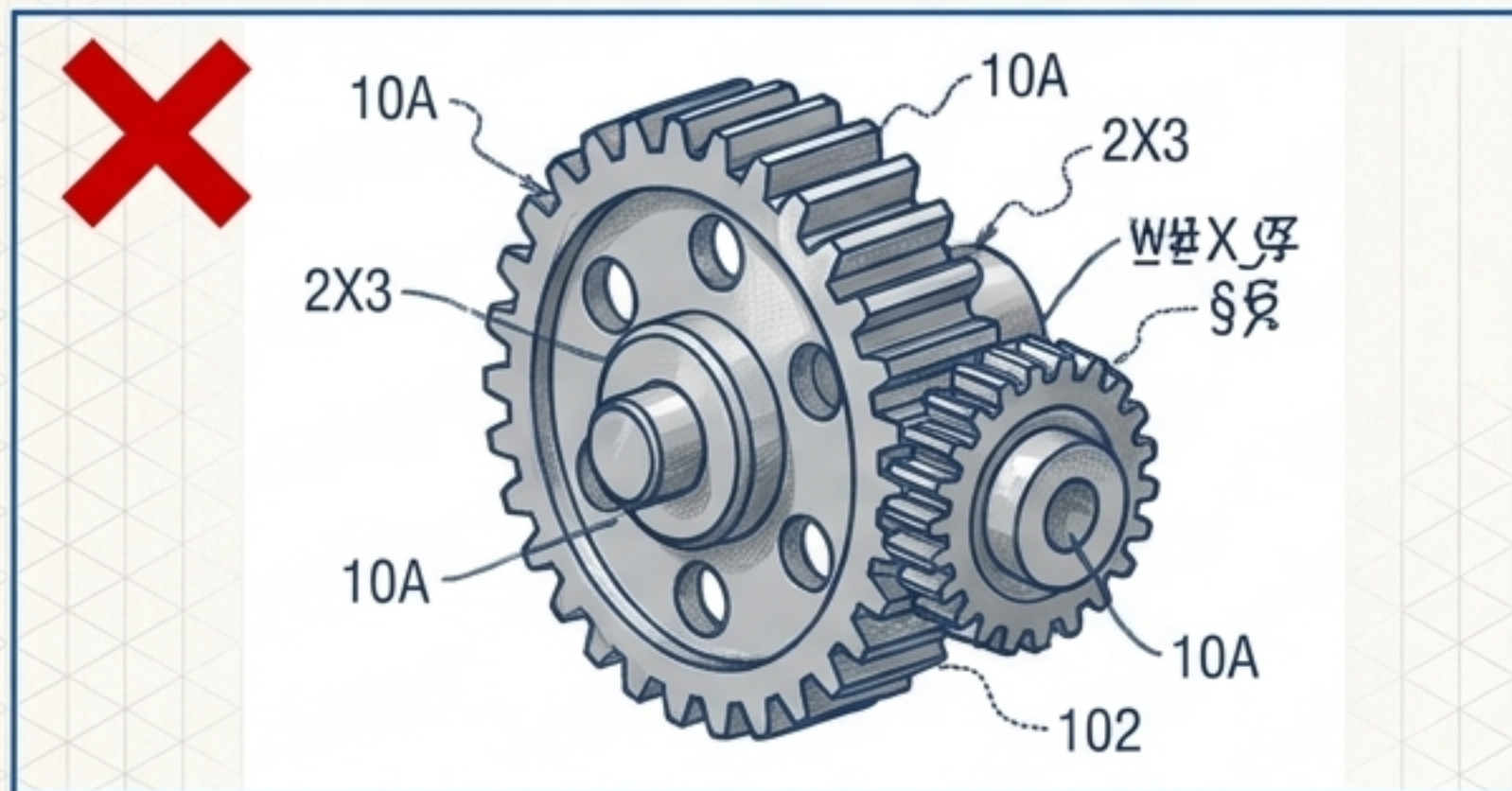
正規の直交投影六面図レンダリング

※将来の無効審判対策として、人間の創作的関与（プロンプト履歴、採択ログ）の保全が必須（USPTO意匠AI公報より）。

実務ユースケース 4: 特許図面作成補助とラスター画像の限界

適用領域: USPTO 37 CFR 1.84 / 各国特許庁の形式要件

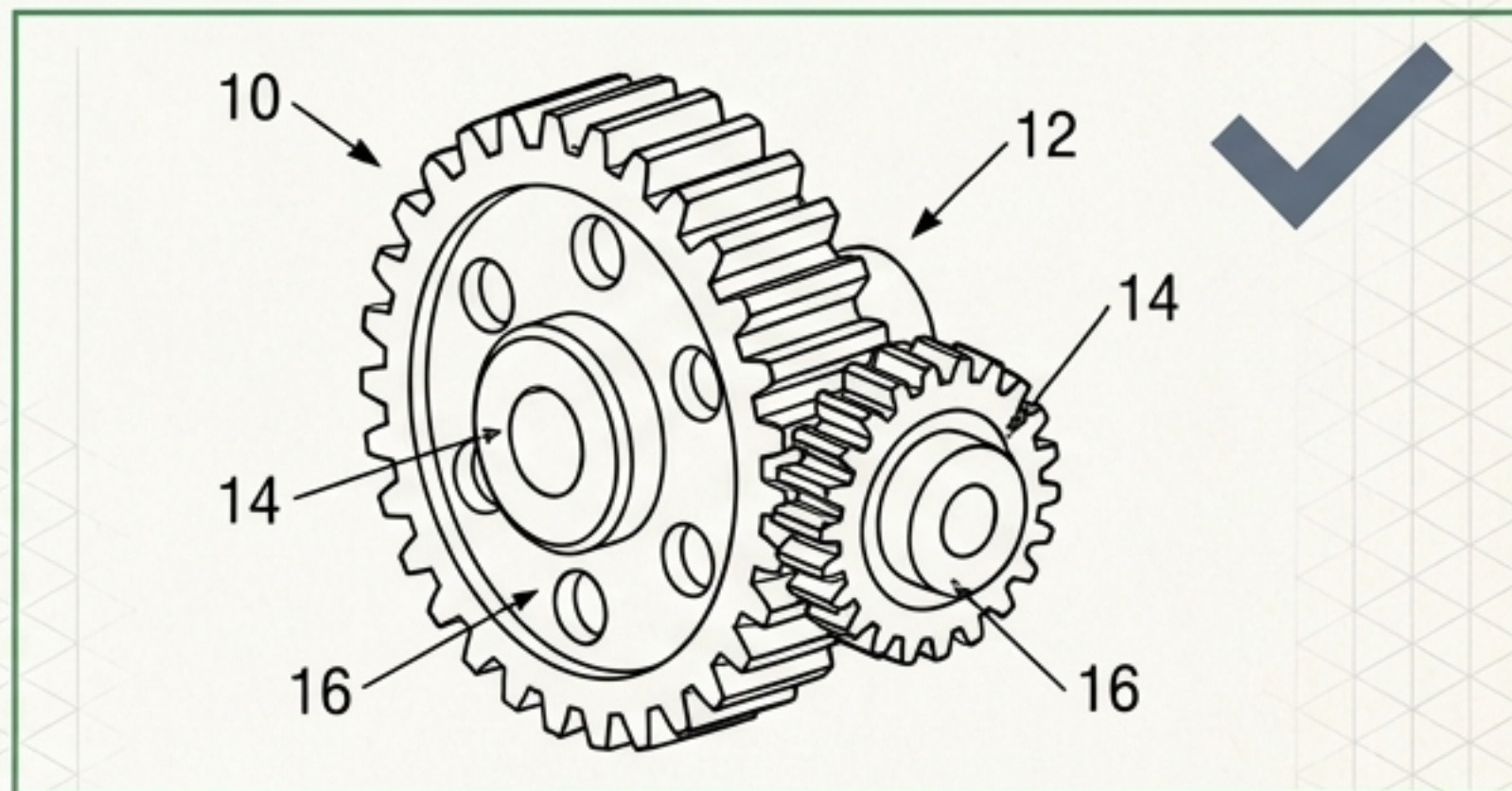
直接出力 (ラスター画像/PNG)



Nano Banana

システムブロック図の概念化に優れるが、参照符号の重複・脱落（ハルシネーション）が発生しやすい。

正規図面 (ベクター/0.3~0.7mm単線)

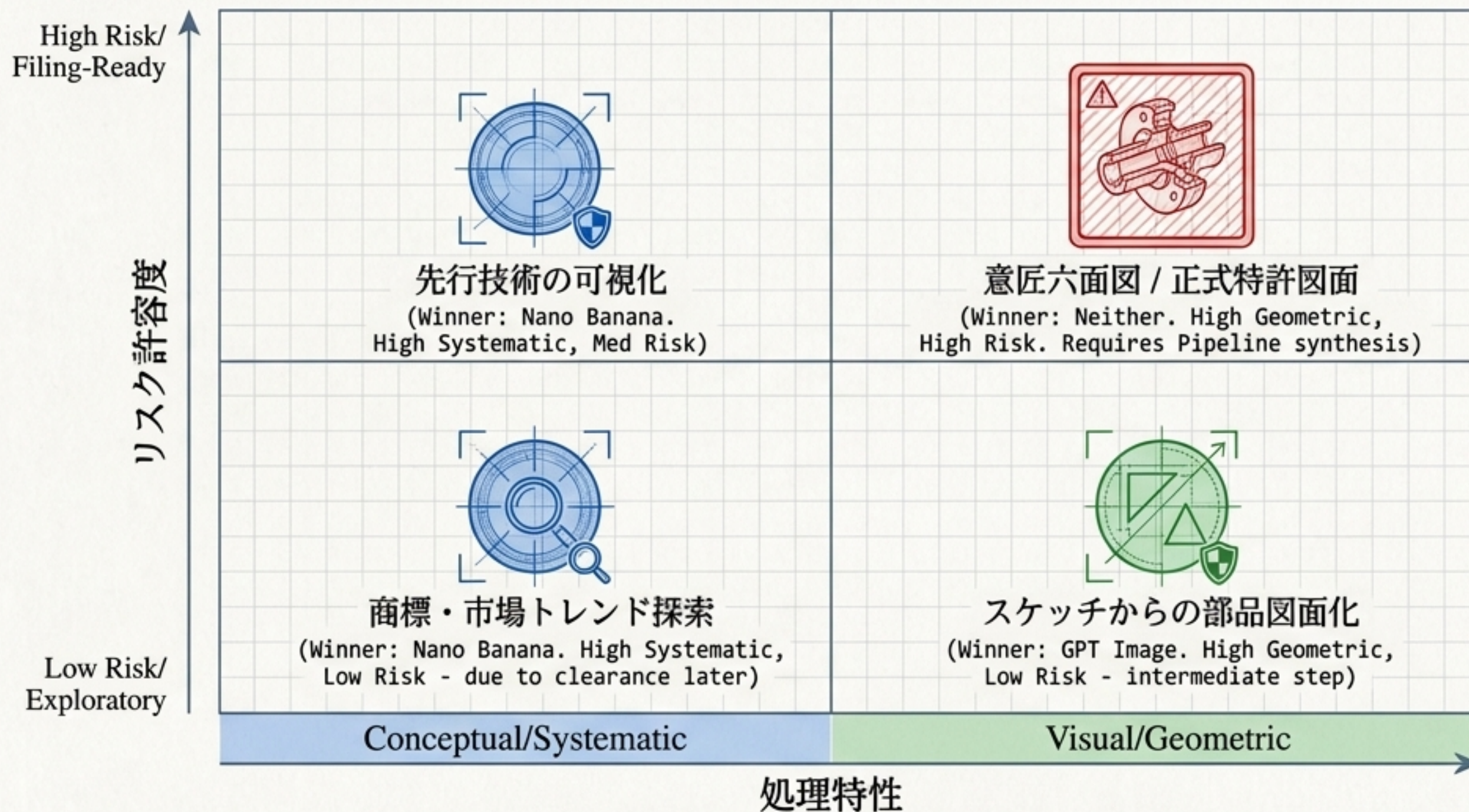


GPT Image

手描き下絵の清書 (Sketch) や、Sunburstの透過背景による機械部品の個別切り出しに最適。

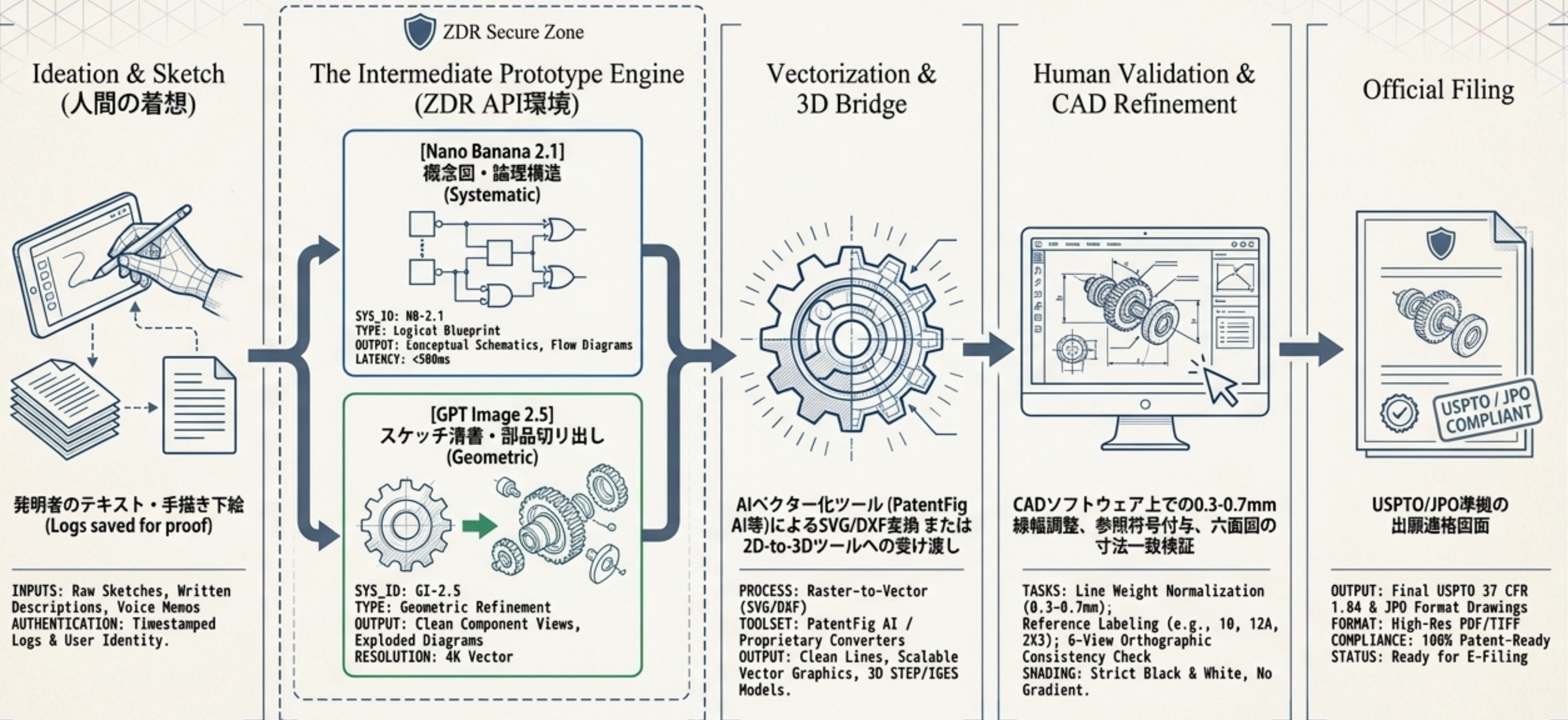
根本的制約: 両者とも出力は「ラスター画像」であり、均一な黒の単線や陰影排除の厳格な要件を満たせない。
AIは図面作成の「支援ツール」として着想 (Conception) のプロトタイプに留める運用が必要。

知財ドメイン別 AIモデル適合性ヒートマップ



結論：領域によって最適解は二分される。最終的な権利化（Top Right）には、単一 AI モデルではなく「ツールチェーン」が必要。

知財実務における標準化AIパイプラインの確立

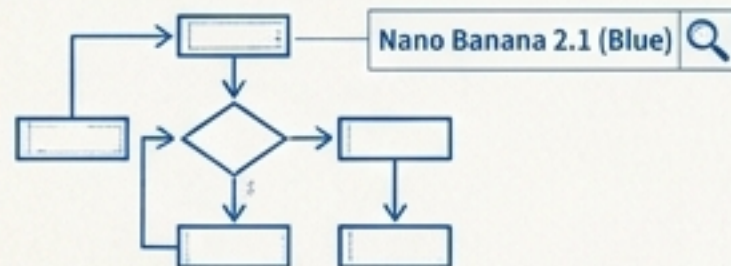


知財部門への戦略的提言とガバナンス要件

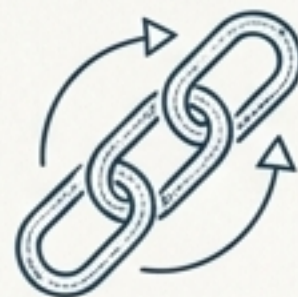
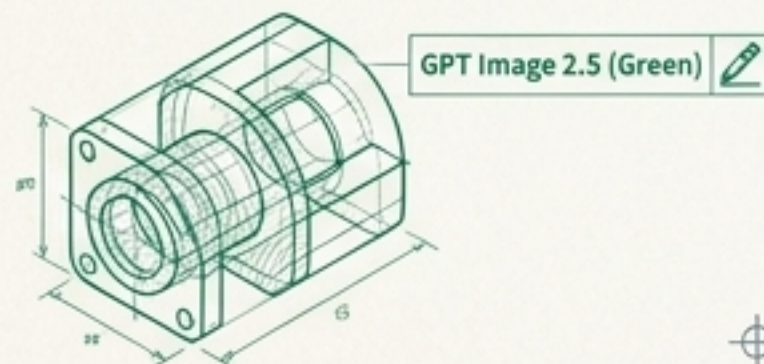


1. ハイブリッド運用の適材適所

- 文献読解・概念図作成・市場調査には推論主導のNano Banana 2.1を配備（低コストな初期スクリーニング）。

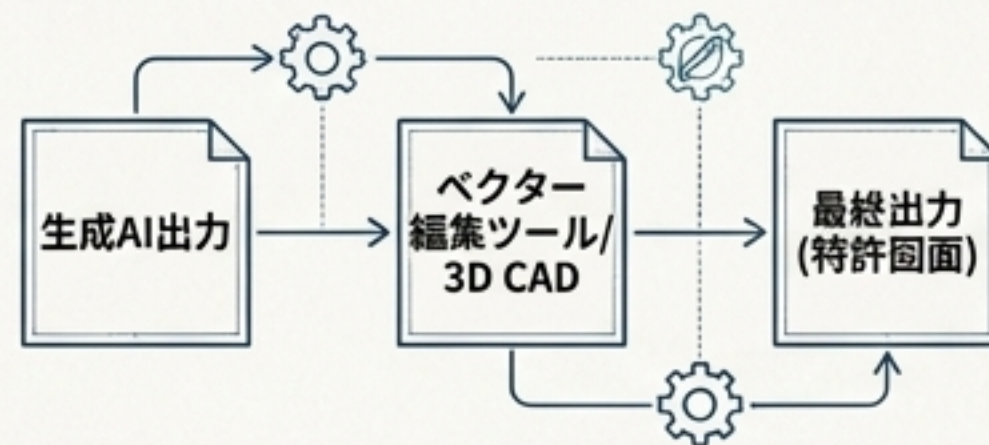


- スケッチ具体化・透過背景・反復的局所修正には制作主導のGPT Image 2.5を適用し、作業再現性を確保。



2. 「中間プロトタイプ」への位置づけ

- 生成AIを最終出力ツールと誤認せず、後段のベクター編集ツールや3D CADソフトウェアと接続する標準パイプラインを構築する。



3. ZDRの徹底とエビデンス保全

- コンシューマー環境を遮断し、ZDR（ゼロデータ保持）が担保されたエンタープライズAPI環境の利用を義務付ける。



- 将来の著作権・発明者適格性の立証（無効審判対策）に備え、プロンプト履歴、中間スケッチ、修正ログの永続的な版管理体制を確立する。

